

8

9

10

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

特別

~5

6689



貴
15
6689

今八東歌と改り、狂歌とへも
むづく、維舟法橋の印をこそ
もやくよりあの道にまちに
ぬうえ今も好士め匂をちつ
たり。余は端書せよ題を銘
せよとアマリ、う菊口ひき

一 う用す能界よ生れ

ゆてすみゆりと 唯ゆる内

一 おもかづくせつ 附ハ
文月をきひ文月とがんば

蘿鐵林

千聲謾艸

盆夕

夷則七月の律 その針糸無生を底あへ出せふま
龜も踊り出でる故名盆候とす
此の音を揃つちておひく三指
まとまと

顯銀河

人の氣へ流き込むり天の河

月峰 東教

紋辞定 一 草の初花 柳水

秋は賀ハ弊のちぬあやうそ 丹林



其二 牵牛

盛秋

床よ喰巢父や星乃うす花
秋へとくはく月の舟組為見

蜻蛉ゑむるすれに雀鷗とちむらん 因水

其三 織女

固士

織殿や播川浦門女七夕
そぞ城のゆき翁の少ね盛秋
拂城下ハトウヒノ粟を笠上で 雲霞

其四 願糸

丹林

又仕や拂シムハ卒此糸
ほくさイ乱毛扇緋子褶 雲霞
顔つ赤も車内獨り秋更々 为見
其五 梶葉

家形よ本賊うけも梶の肴 为見

車に真帆ハ戸戸乃盆ぢ 丹林

声の尾かみーが矮鶴す月也 因士

其六 秋去衣

鶴錦トリよ星ヒメ内ナカニ意イニヤ木國寺モククニシ

初ハさハノハタハ紅レバ葉ハはハうハ 東ヒムカ

扇ハラタケ立タケル石イシよヨリ草スグリとト吹ハラフん 盛秋

其七 紅葉榜

じや乍ハりて 流ハシマリき紅レバ葉ハ別ハセき榜ハシマリ

言ハシマリ葉ハシマリのハシマリて 菜ハシマリハ猪口ハシマリ 因水

露ハシマリをハシマリぬ 裹ハシマリよ影ハシマリトハシマリや 弓ハシマリをハシマリつ 東ヒムカ

雲鼓

拳チ九ク併ハ

設ツ五ク陰ハ

むほうハ力ハ詫ハや朝ハ白ハ小ハ紫ハ埴ハ 東ヒムカ

風ハのハちハは 煉ハシマリはハシマリんハシマリどハシマリり 盛ハシマリ

斤ハシマリ碁盤ハシマリ蚰蜓ハシマリよハシマリ力ハシマリ晴ハシマリ 丹林

太ハシマリ鞆ハシマリ力ハシマリとハシマリやハシマリくハシマリ鑰ハシマリ乃ハシマリ見

支橋ハシマリのハシマリ離ハシマリよ行ハシマリく水田ハシマリよハシマリ 固士

利休ハシマリのハシマリ好ハシマリきハシマリくハシマリの花ハシマリ 哥ハシマリ

盆正内す外の礼を乎にて 煖

袖珍 烤を縁に見送リ

林

我思ひ雪にも深次角壁 見

大坂下して後と捨絆縫

士

阿波て吹風ハ何^{イツシ}の斤役宜 す

老後の悴 蟬の塔組 煖

弦錠内堤ちやうき油虫 林

傳玄霧うなまむと鍾の石月 見

老後の悴 蟬の塔組 煖

有難い作ア一醉ヒタ原士

一二鬼張キハ豆腐箱歩奇

谷の戸も剣てハ花乃下様変殊

独活不防鼻を作の面ニ

此まもと玉垣乃云葉假想及

えいすとく今ハ砂石 士

御公乃達の穴より度い夢 煖

哥

ニ

此まもと玉垣乃云葉假想及

えいすとく今ハ砂石 士

御公乃達の穴より度い夢 煖

哥

玄羽ノ一 遂懐なげ、蟹乃附林
藤合羽アノ長門アノ
皺トテ腕く、空衣の二枚粉ハギ
露カヨ、柄ハ肉と微塵カウロキ
蜻カウロキ、カウロキと竹馬中向ヒ令色
冬瓜のきノ一む四十三稽林
つき出を寂滅為樂ト腰てア見
玄羽ハ、さく、玄羽ヘ、危言
士

神よ、ここハ可ち乃は、、空津山
一番草、トモウツ、歛計アム
死まの口へ隠居ヒ地茅丸
猿狂え、辨論子の艶
麻入内花よわだ。鬼生事シヤジン
いじそよす、粥杖の先

踊

鳴原やあとなり崩きて門身拭
竹四本植てやゑ踊^{アシ}踊^{アシ}般石
鷺もあき踊残^{アシマテ}さ高原
身力瘦向む夜をぬりや踊化^{アシゲ}路通
我みよや佛モリとハ踊^{アシ}トリ之白
三千の木柏子^{シラタケ}捕へ大内裏柳水

今乃世に埴賀踊もはと哉千春
模雲や晦日あとなりの町人丸棹^{ミクイ}欲
而漢から千代の初の琴^{クニ}聲^{ウタ}雲歩
踊^{アシ}子^ノ諸^シにゆうと時^ヒ西角
山の脇^{ヤマツキ}よ肉と云う^{アヒ}踊哉^{アシ}貞上
踊^{アシ}子^ノ糸舟^{シテボウ}舟持^ヨ身の^{ヒメ}雪月
氣さん^ノや面^{マスク}え踊^{アシ}ル主内^{シナ}梨水
百八の踊^{アシ}子^ノ碑礎^{ヒソク}鴻^{ホウ}礁^{カタツムリ}と^ニ優士

かたりよや三上山まことハ文字 芦タ
宿老乃裏判玉つゝ 踊下 百合
立白う笠よ化夜かとりふ 舞
甘酒よ早稲の香あれ田踊 鬼躰
朝川の内役く行く 踊髪 雪且
版八木い石女ウニス乃袖の踊う耶 梅雀
寝姿の空と 振ツバタ 踊下 友産
立うなみ 踊乃、離や訓蒙圖 至樂

善の本乃鳥羽追ふと 踊も 吉友
硯よ筆詔陽奥の多き踊下 可洞
歟ヨトコ みハ何くらん水乃泡 眼花
女房出せ罔乃至極ハ踊骨 雪燈
喧嘩ヨロシ 座乃ハ消す踊れ 芦箭
踊町そこか 座も 卸う耶 深澤
踊みかうづくめあて達磨 百童
蠍スズメ のみハ斤原町乃詠いも武 因之

小座姿三分よがくり力鮮や急雨志来
ねうりみ瓜見き合つたり女外巴石
人の魂つむ、二はうち踊殊教一巴
振出チリリレて鳳負ゲホウ一打匾画武春鈞
金鞶チリリレよおうちハ夙のそよが
衆合や踊ぬせハ八軒庄園士
舞りちや頬マツメア寺踊竿丹林
題目タト鼓吹也松づ鳴盛秋

山うす勧収品の響り下東放
よもかく鳴束マツシの踊アセウチ雲鼓
皮小こを野良や君と踊マツメ人因水
山うすひらまわとハ
むへやア一踊自兼

祭能戰場靈

索麵乃至手縛て若衆れ胡夙馬

か好の河豚を秋水水

狼丸左支奥山下紅素踏分明

三味線脩りに鹿肺も水

どうと磨と今と廻し戻

よす何とかと咄とん定

鼓

固水

立難と松の蓋と云社町

喧嘩の中へもうづく

絶具い美玉はやく絶具い

いは鉾らきえ袖ゲシカハラチ

塵泥ト氣色ハ何如ア阿房殿

欣

題力ナ有夜ヨシニ陣六枚

鼓

黒羽シマ阿孫絕ハ殊モ申

水

思葉もつば涼、五月雨
あとの雲姨ひづる北庄壁
本辰キテアモの堂トム月
衣儀判の日ハ麵棒花咲
水玉荒房あくまう車
お佐内圭切てアモヤ津守裕
ちひゑよ向そヤコロヒ
欲

すゞむい版ノ常リ、簾落キ
候氏者ナカニ墨丸ミテ
旅を居後ウシヨ使リビ寃弱て
一筆替上と書いて云下
正ろの紫と天狗固扇は蠅打
ちあいり承てかドモシ
踊う謀反城主キヨトハ鼓

似す 絹衣 紫乃花 水 欲 敦 水 敦
善導の先よや肉いた日已
襟よむこゝへども 盗船
ナ松木はく詠いよ里邊根
市中れぬと若く 松風
寶永も玄早六年うそく花
綱貫の鬼タマ まゝ 昨日 水

新町乃ニ糸タチより糸タチの弓
糸遊タチテの経タチ織タチの巣タチの緯タチ

放

老ありて樂むき道もあらず
ちるは花晨夕月よ併^{キナ}んといふ
さへ一曲へとどよしより頑にいち
うたはすりの宮古に似氣かよふ曲
がうきよひて生前力榮耀とも
よからず隣り道の餘をとる
てかほ一城ともなしの壯^シ情よ幸^{タク}
ともう八幡大名

月峯
東教自跋
いづみを教板

